

(様式1・小学校用①)

令和元年度 学 校 評 価 報 告

草加市立花栗南小学校
(令和2年2月10日作成)

1 学校教育目標 ○考える子 ・夢や志が持てる子 ・自ら学び、自ら考える子 ・最後まで粘り強くやり抜く子 ○思いやりのある子 ・自分と仲間を大切にする子 ・正しく行動のできる子 ・お互いの良さを認め合える子 ○体をきたえる子 ・健康や安全に関心をもてる子 ・自ら進んで体をきたえる子 ・楽しく運動に取り組む子	
2 重点目標・努力目標 1 一人ひとりの個に応じた教育を推進と確かな学力と生きる力の育成 2 心潤う生徒指導による豊かな心の育成 3 人権を大切にする教育の推進 4 体育的活動の充実と体力の向上の推進 5 安全・安心で美しく潤いのある教育環境の整備 6 地域との連携の強い本校の特色を継承した、地域から愛され信頼を深める特色ある学校づくりの推進	3 前年度の成果と課題 成果 ○体力テストの結果が県平均を大きく上回ることができた。 課題 ●校外においてもあいさつができる児童の育成を図る。

4 評価表 ※評価基準 [A: 十分達成している B: おおむね達成している C: やや不十分である D: 不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	B	○校内の様々な課題に対して、適材の人材を配置し、担当が中心となり解決することができた。 ●教職員一人一人の俯瞰的視野の育成が必要である。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	A	○小小・小中の連携を深め、15年間を見通した小中一貫教育の推進を行うことができた。 ●これまでの取組を継続し、指導力向上を目指す。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	B	○保健安全の全体計画に則り、全職員で健康安全な学校生活づくりに努めることができた。 ●危機管理マニュアルの見直し及び安全点検報の方法に対して共通理解が必要である。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	B	○校内個人情報管理規定、校内情報機器等の管理運営規定に従い、情報を適切に管理することができた。 ●施設の老朽化に対する速やかな修繕の対応が必要である。
	⑤地域との連携 開かれた学校	・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会、 学校評議員制度の活用 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化	A	○学校公開を多く開催し地域に学校の様子を知らせることができた。 ●学校応援団についての周知と連携を充実させなければならない。
	⑥幼保小中を一貫した教育	・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じた教育課程の編成 ・一貫教育推進のための組織づくり	A	○一貫教育のための組織づくりをすることができた。 ●一貫教育の目標を全教職員が確認し、継続的な活動が必要である。

草加市立花栗南小学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	・15年間を通じた教育課程の編成、実施 ・教育計画の作成 ・教育活動の評価 ・目標、方針の周知 ・授業時数の配当、確保	A	○学習指導要領に基づき、計画通り、実施・評価ができ、児童のよさや確かな学力の伸張を図ることができた。 ●教育活動の評価を確実に次年度の実践に活かせるよう、方策を明確にしたい。
	②教科指導	・指導計画の立案 ・主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 ・評価、評定の工夫 ・外部人材の活用	A	○「児童が主体的に取り組める授業の工夫・改善」「家庭学習の推進」により学力の向上を実現した。また各種学力状況調査の結果においても児童の学力の定着を確認することができた。 ●さらなる「花南スタイル」研究実践が必要。
	③道徳教育	・全体計画の作成 ・各教科との関連 ・道徳実践力の育成 ・家庭、地域社会との連携 ・いのちの教育の推進	B	○道徳の時間や他の教育活動において、全体計画に基づき全職員で道徳実践力の育成に努めることができた。 ●研修計画に基づき着実に研修を実行する必要である。
	④外国語活動	・指導計画の立案 ・指導方法の工夫と改善 ・評価、評定の工夫 ・各教科、道徳教育との関連 ・中学校との連携	B	○指導計画に基づいて、児童が外国語に慣れ親しむことができた。 ●新学習指導要領の全面改訂の伴い、計画的な研修が必要である。
	⑤特別活動	・指導計画の立案 ・学級活動、学級経営 ・学校行事 ・児童会活動	A	○学校生活をより良いものにするために、児童会や各学級で進んで取り組むことができた。 ●本校「3大じまん」を主体的に児童が実践できるようにする。
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	・指導計画の立案 ・指導内容の充実 ・指導方法の工夫と改善 ・評価の工夫 ・地域の人材・物的資源の活用	B	○校外での学習や地域の方による指導、福祉、環境など計画的に実施することができた。 ●次年度に向けて、学年間で系統的な指導の工夫改善を行う必要がある。
	⑦生徒指導	・組織的な生徒指導 ・問題行動への対処 ・教育相談、児童理解 ・いじめ防止対策 ・保護者、地域、諸機関との連携	A	○生徒指導委員会を活用し、児童理解・問題行動把握を行い、迅速に対応することができた。 ●積極的な生徒指導に向けて、全教職員の確実な共通理解が必要である。
	⑧キャリア教育	・計画の立案 ・指導内容の充実 ・中学校との連携 ・啓発的経験の充実 ・家庭、地域との連携強化	B	○一人一人の夢や個性を育てる活動を行うことができた。 ●小中一貫を通し、中学校との連携を深め、計画的に行う必要がある。
	⑨特別支援教育	・個別の指導計画、支援計画 ・指導方法の工夫と改善 ・通常学級との交流 ・諸機関との連携 ・校内支援体制の整備	B	○個別の指導計画を基にした教育活動が実施できた。 ●支援を必要とする児童への理解を全職員参加の研修等を実施する必要がある。

⑩学校図書館教育	・指導計画、支援計画の作成 ・図書館補助員の活用 ・諸機関との連携 ・図書館の整備 ・図書館利用の工夫	A	○調べ学習や読書活動が活性化し、図書貸出数が児童一人あたり現時点で年間60冊を超えた。 ●読書の質の向上を目指す。
⑪情報教育	・教育計画の作成 ・校内研修の充実 ・ICT機器の積極的な活用 ・情報モラル教育の推進	A	○コンピュータ、プロジェクター等を整備し、デジタル教科書、デジタル教材を活用し学力向上に繋げた。 ●多くの教科で活用できるよう研究を深める必要がある。
⑫人権教育	・全体計画の策定 ・各教科との関連 ・人権感覚の育成 ・校内研修の充実	B	○人権作文・標語等の取組により、児童に人権について理解を深めさせることができた。 ●人権についての個々の教員の研修が学校全体に広まっていくよう、計画的に校内研修を行っていく必要がある。

草加市立花栗南小学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅲ 特色ある学校づくり	知育 (考える子)	- 指導法の工夫改善 - 家庭との連携 - 朝の学習タイム	A	○本年度の研究(幼保小中一貫教育)について全職員共通理解の元で研究できた。また、各種学力状況調査の結果においても児童の学力の定着を確認することができた。 ●花南スタイルの継承及び、ICTを活用した指導法について、さらに研究を深める必要がある。
	徳育 (思いやりのある子)	- あいさつ - 読書 - 掃除	A	○本校の重点である「あいさつじまん南っ子」の具現化を目指し、全教育活動において組織を挙げて取り組んだ。また読書活動を通して情操教育の推進を図ることができた。 ●校外においても自分からあいさつができる児童の育成を全校共通の目標とし、取り組む必要がある。
	体育 (体を鍛える子)	体力向上	A	○体力テストの結果が県平均を大きく上回り、学校全体として児童の体力の向上を図ることができた。 ●休み時間等、主体的に体を動かす児童を育成するため方策を立案実施する必要がある。

5 総合評価 (学校関係者評価を含む)

- ・学校、地域が一体となった、あいさつ運動を継続することで、児童の自信や意欲、地域への愛着が醸成されてきている。
- ・学校内外の行事をチーム花南の全職員体制で行うことで、児童の意欲や取り組む意識が向上して成果を挙げることができた。児童の自信にも繋がっている。
- ・「あいさつ」、「読書」、「そうじ」の3大じまんを児童・教職員全員で理解し実践することにより、児童の向上意識を醸成することができた。
- ・職員が共通理解のもと、体力向上に取り組んできた結果、引き続き、児童の体力の向上が見られ、校外大会にも意欲的に参加する児童を育成することができた。

6 次年度の改善策

- ・研究を深めてきた花南スタイルの共通理解及び、さらなる深化を図り、「学び合い」により、意欲的に取り組む児童の育成を図る。
- ・小中一貫教育について、反省点を明らかにし、目指す子ども像に近づけさせるため、さらに3校共通理解のもと研修を深めていく必要がある。
- ・教育相談活動を組織的に行い、問題傾向のある児童、支援を要する児童を早めに全職員でサポートしていく体制の強化を図る。
- ・児童把握を確実にし、児童に本当に必要な力を身に付けさせるため学校行事を精選し、全職員共通理解のもと、効果的な教育活動を行っていく必要がある。